

不必要な「進歩」にフレーチを

力しーが合ひ

スパイズ94品に放射線照射を要請

里見 宏(照射食品反対連絡会)



みやざき ひろし氏
公衆衛生学博士

原子力委員会は昨年十月、食品への放射線照射の推進を決めた。
その皮切りに子じめ大人も大好きなカレーをはじめ、
ほとんどの加工食品や家庭での調理に使われるスパイズ94品目を選んだ。
今こそ「照射食品は危なうい」との声を挙げたい。

ジャガイモだけに許可

放射線の当たった食品を食べたいと言ふ人は少ないし、そんな食品があることにすら知らない人が多いと思います。

日本の法律では、食べ物に放射線を当てるることは禁止されています(例外規定で異物混入の検査と食品の厚み確認に0.1グレ

イ以下)。ジャガイモに150グレイの照射が認められている(放射線の単位が、ラドからグレイに変更。1グレイは100ラド)。

照射食品の問題は40年前にさかのぼります。65年に内閣府の原子力委員会は「原子炉の多目的利用法の開発」として、米・小麦粉・ジャガイモ・タマネギ(芽止め)・マカロ(カビ防止)・ワイン

放射線を当てていた事件が発覚しました。ついたたまご事件はその後も續くことになります(66年から6年までに発覚しただけでも中国・米国・台湾・ブラジルなど6カ国から、朝鮮人参製品・花粉加古育苗・粉末サメ軟骨・アカリクス製剤・焙煎豆アフア豆他15件。赤ちゃんの食べ物にまで違法照射だったので、社会は照射食品に厳しい目を向け、ジャガイモ以外の6品目は許可になりませんでした)。しかし、照射食品を推進してきた原子力委員会は、この状況

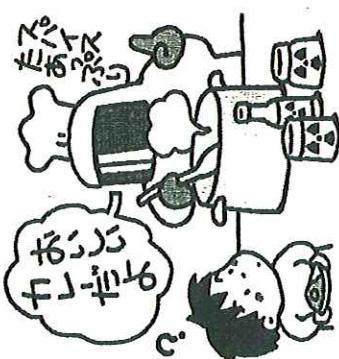
を苦々しく思っていたのです。

スパイズに便乗した原子力委員会

原子力委員会は、原子力発電の他に照射食品も推進する方針を、昨年10月に原子力政策大綱で決めました。それは、原子力の平和利用を強調するためでもあります。しかも照射食品が広がらないのは、消費者の理解不足と決めつけ、消費者の抵抗は根拠のないものとしたのです。ちょうど60年に94種類の香辛料野菜、ハイアミルに照射を申し出していたスパイズ業界を後押しする形で、昨年の暮れから9回の審議を行い、今年7月13日に、推進の報告書を作り上げました。

信憑性に問題がある報告書

この原子力委員会のつくった報告書には、いくつかの問題点があります。原子力委員会は、照射食品が安全だと言う根拠をIAEA(国際原子力機関)・FAO(国連食糧農業機関)・WHO(世界保健機関)の照射食品の合同専門家委員会が80年に出



カット・宮澤英子

ナショナル・水産練り製品(殺菌)の7品目に照射するための研究を開始し、72年に厚生省(当時)は世界に先駆けてジャガイモに照射を許可しました。

これに対して消費者が、自治体も巻き込んで反対運動を起しました。唯一照射ジャガイモを作っていた北海道の土幌

農協は在庫を抱えることになり、日本学校給食会を通じて全国の学校給食で食べさせたのです。それを知った父母亲たちは、照射ジャガイモを追放しましたが、その後も群馬など、地域レベルで学校給食に使われていました。土幌農協は3万トンの照射能力がありますが、生産量は一切公開していませんでした。ところが今年6月、佐坂辰人議員が出た質問問題意書に初めてその量が公表され、昨年は8000トン照射していましたが、その行方はわかりません。

こうした新しい技術が許可になると隣れて使ふ会社も出てきます。74年から4年間、和光堂のベビーフードの材料に、下請け会社が最高3万グレイという強い

した「1万グレイまでの照射は安全とする」とした報告書にゆだねました。この専門家委員会とは、各国の照射食品を推進している人たちで構成され、報告書の表紙に「集まった委員の見解をまとめたもので、決定ではない」と断り書きがあり、内容も矛盾に溝っています。こうのは、「照射ができる未知の物質や揮発成分の毒性などについても調べること」。一分脊椎という異常を防ぐ柔軟が照射で減るので、主要な食品について調べるうちになど多くの課題を記しています。ところが最後のページに、根拠も示さず安全と書いてあるのです。ここに集まつた推進派の人たちが、世界が照射食品にさびしい目を向いていることから、焦りのあまり国連機関を利用して作り上げた、非科学的な結論といえます。

和光堂の照射ベビーフードが刑事案件として裁かれたとき、会社側の証人になった専門家が、この報告書を横に「W H Oも安全としている」と主張したのに対し、検察側証人は安全といえる根拠

データではないけれど、逆に危険を示すデータの重要性を示しました。そして、裁判官は「安全性には議論が残っている」として、違法照射した会社側を有罪とした経緯があるのです。原子力委員会はこうした基本的問題の検証をせずに、照射を進めるよつとしています。

照射タマネギは危険

スパイズの中にタマネギも入っているのですが、日本の国立衛生試験所現国立医薬品食品衛生研究所が行つた照射タマネギの毒性実験で、骨の瘤形が2倍に増えたという報告があります。

この実験はまず300グレイ照射した
タマネギを4%餌に混ぜ、1カ月だけ与
えたマウスを交配させて、三世代まで子孫
もを作る実験です。卵巢と睾丸が小さ
く、骨に異常が出ることがわかり、再実
験が行われました。放射線の量は150
グレイで2%混ぜ、同じように実験した
のですが、やはり骨の奇形(彌助)が2倍
も出たのです。報告書が安全としている

一万グレイよりも、150グレイでも危ないです。

その他の問題

「照射すると食味が低下する食品がある」と、原子力委員会も書いています。これは安全性と密接な関係があります。NASA（アメリカ航空宇宙局）は、衛生管理のために宇宙飛行士の食事に照射していましたが、照射された食品が「髪の毛の焦げたような照射臭」をもち、食欲を落として中止し、ハサップ（H.A.CCP・危害分析重視管理点）という管理办法を作ったのは有名な話です。

カナダから輸入したサケに強い異臭があり、送り返したものも選法照射されたものでしたし、ベビーフードへの照射が発覚したきっかけも具合のせいでした。こうした照射によって新しい物質が出来るところや、その物質の安全性の研究は進んでいませんでした。ところが98年、ドイツ、カールスルーエ選法業界研究センターは、照射によつてできる化学物質の

ひとつ、コードナルンクロアターハを
ラントにすると、腸から吸収されて細胞内の遺伝子(DNA)が傷つくと報告して
います。その後、フランスのパリ大
学の研究者はこの生成物質が発がん
物質と一緒に体内に入ると、強い発がん
増強作用があると報告して
います。大変重要な報告です。しかし、この実験につ
いて、原子力委員会は、WHDが「この
照射生成物は消費者に健康の危険をもたらすようには見えない」と書いて
いて、それを引用して安全だとしたので
す。問題が出たときに、すぐ実験してみ
ればよろのですが、それをせずにWHD
を信じたのです。

照射ジャガイモやタマネギは被曝のために生殖能力が奪われただけでなく、菌に対する抵抗力が低下し、わざわざな傷やこすれで二三箇所腐りやすくなります。

また、照射で殺菌すれば食中毒を防ぐといつてはいますが、これは中毒のメカニズムを無視しています。照射後、直ちに完全密封しないとまた菌がついてしまう

ので(2次汚染)、中毒の予防にはならないのですが、密封すれば照射具が残り、商品価値がなくなります。もつひとつ、菌を抑えると放射線に強いカビが生き残って、そのカビが出すアフラトキシンという強い発ガン物質が、照射食品から見つかることです。

照射は何のために

00年に日本スペイス協会が出した香辛料への照査要請は、輸入している香辛料が菌で汚染されているためといふものでした。現行の殺菌法では、品質が劣化するといふのです。私も調べ、厚生労働省

出した香辛料
いる香辛料
いうもので
質が劣化す
厚生労働省
りづけが、

照射の有無を調べる検査法はない

「昭和食品は表示をすれば消費者が選べる」といふ人もられます。当てたかぬれならどうう程度なら検知できても、どのくらいの識量を何回当てたのかという定量的検知技術は開発されていません。これでは実用的な意味がないのです。

これらのひとから考えてみ、照射で利益を得るのは、原子力産業と輸入業者だけです。今消費者は、望まない照射食品を食べさせられるがどうかの懸念にします。今ならまだ食品への照射を止めることができます。スペインは、全ての加工食品に使われているので、皆を人が反対の声を挙げるところが大事です。地元のお店に「放射線の当たつたスペインは嫌わないで」と頼み、その店が賛同してくれたら、在記へ連絡してください。

94 食品の規制と監視

にも確認したのですが、香辛料による食中毒は発生していません。スペイ
ス業界は自分の商品を菌
だらけとまで言って、照
射にこだわるのはなぜで
しょうか。米国など一部
の国では、スペイスに照
射していますが、そこか
ら輸入している業者は、
照射の実態を隠して輸入
している可能性があります。
これを合法化したう
業者がいても、不思議は
ありません。そこ考ふる
と謎も解けてやまます。